



岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

令和3年4月15日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ トミヤマガックレンゴウデョウウナйкаイ
団体名 富山学区連合町内会

所在地

連絡先

代表者役職・フリガナ氏名

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	地域防災力の向上 ～災害犠牲者を出さない～
事業実施区域 (小学校区)	富山小学校区

①事業実施内容	※実施事業の概要（200字程度）をご記入ください。 ※事業実績を示す写真（事業内容ごとに2枚程度）、作成した報告書やチラシ等を添付してください。 アンケート等を行った場合は、集計結果を添付してください。また、新聞等で取り上げられた場合は、その写しを添付してください。 (1) 上半期は活動中断、下半期は防災活動推進体制・活動計画の見直しに注力 (2) 令和2年11月14日町内会長会議にて、見直した防災活動推進体制・活動計画、単位町内会への依頼事項を周知【添付資料①】 (3) 自主防災会と単位町内会との間で、単位町内会ごとの防災推進会議を実施し、防災活動についての単位町内会との同意形成・すり合わせを図った⇒21単位町内会中、12単位町内会で実施 (4) 学区防災活動の推進主体であった有志による”犠牲者ゼロプロジェクト”と形式的な結成にとどまっていた”富山学区自主防災会”とを一本化し、防災活動の継続性を確保 (5) 令和3年2月21日富山学区防災訓練にて、避難所運営を想定した受付訓練、食糧配給訓練、簡易ベット組み立て訓練を実施【添付資料②】
②解決を目指した課題	災害犠牲者を出さない防災活動の実践 【自助・近助】 自分たちでできることについての啓蒙を愚直に繰り返し、平常時の備え・災害時の適切な行動を促す 【共助】 自助を促すあるいはその調整のために果たすべき役割を明確にし、連合町内会・単位町内会レベルでの体制・仕組みを構築する 【人材】 防災活動を主導するリーダーを育成し、組織化する

ア 地域課題解決⇒解決を目指した課題の達成状況
 イ 地域課題掘り起し⇒掘り起こりにより明らかになった課題等
 ウ 地域計画づくり⇒作成された計画等
 エ 地域課題解決型の地域組織づくり⇒目指した地域組織づくりの達成状況
 オ その他⇒定めた目標の達成状況
 など、掲げた目的とその達成状況を記載してください。また事業を実施したことで生まれた新たな効果などありましたらご記入ください。

(1) 住民に対するマイ・タイムラインの周知

計画	・講習会（４月～６月）計４回を通じて、災害に対する早めの準備、避難の必要性を住民に周知
実績	・上半期の活動中断に伴い未実施
今後	・令和３年６月学区内に全戸配布する豪雨災害編防災パンフレット（A2両面）にて、学区の災害危険度、タイムライン、避難場所、災害への備えなどを周知

(2) 豪雨・台風時の住民に対する適切な情報伝達

計画	・災害時に住民が取るべき行動を促す緊急連絡網づくり ・７月～９月、実際の豪雨・台風発生時の実践、改善
実績	・上半期は活動中断 ・１１月町内会長会議にて、【添付資料①】 ①学区から単位町内会へのLINE緊急連絡網登録を依頼 ⇒21単位町内会中、14単位町内会登録済み ②単位町内会から住民への緊急連絡網づくりを依頼
今後	・未対応の単位町内会への督促（雨季までに） ・７月～９月、実際の豪雨・台風発生時の実践、改善

(3) 避難誘導・避難者受入れ体制の構築

計画	・単位町内会での避難誘導体制づくり ・学区での避難者受入れ体制づくり ・令和３年６月、総合的な避難訓練
実績	・上半期は活動中断 ・１１月町内会長会議にて、単位町内会での要配慮者を中心とした声かけ・誘導体制づくりを依頼【添付資料①】 ・学区での避難者受入れ体制づくりについては、その検討手法を模索⇒東京都で実践されている「避難所開設キット」の富山版を作成し、体制づくりすることを決定 ・令和３年２月２１日富山学区防災訓練にて、【添付資料②】避難所運営を想定した受付訓練、食糧配給訓練、簡易ベット組み立て訓練を実施⇒実際の運営時に考慮すべきことを実感できた
今後	・避難所開設キットを用いた避難者受入れ体制づくり ・令和４年２月、毎年恒例の防災訓練として避難者受入訓練 ・令和４年６月、総合的な避難訓練

(4) 避難行動要支援者の個別支援計画策定（単位町内会）

計画	・要配慮者の把握 ・個別の支援内容の把握、個別支援計画の策定 ・支援体制づくり
実績	・上半期は活動中断 ・11月町内会長会議にて、単位町内会での要配慮者を中心とした声かけ・誘導体制づくりを依頼【添付資料①】 ⇒各町内会で要配慮者の把握はおおむねできているが、個別支援計画の策定は進展していない
今後	・単位町内会との防災推進会議を通じて、参考事例を紹介し、個別支援計画の策定・支援体制づくりを促す ・令和4年6月、総合的な避難訓練

(5) 実効的な防災活動推進体制の構築

計画	・防災活動推進体制の構成員・役割分担見直し
実績	・上半期は活動中断、防災活動推進体制・活動計画を見直し ・学区防災活動の推進主体であった有志による”犠牲者ゼロプロジェクト”と形式的な結成にとどまっていた”富山学区自主防災会”とを一本化し、防災活動の継続性を確保 ・11月町内会長会議にて、見直した防災活動推進体制・活動計画、単位町内会への依頼事項を周知【添付資料①】 ・自主防災会と単位町内会との間で、単位町内会ごとの防災推進会議を実施し、防災活動についての単位町内会との同意形成・すり合わせを図った⇒21単位町内会中、12単位町内会で実施
今後	・学区の防災活動を推進する新たな人材（若手・女性を含む）を発掘し、防災活動推進体制を強化する

④ 企画等の工夫と情報公開	※実施にあたって工夫したこと、また住民への活動の周知広報の取組とその評価を記載してください。 【実施にあたって工夫したこと】 ●避難所運営体制づくりにあたって、「避難所開設キット」を活用することを決定した。 避難所運営マニュアルを細分・簡素化し、その場ですばやく誰でも役割分担できるもので、円滑な避難所運営が期待できる。 【住民への活動の周知広報の取組】 ●上半期は活動中断、下半期は防災活動推進体制・活動計画の見直しに注力したことにより、住民への活動の周知はしていない。 ●令和2年12月に実施した富山学区小地域ケア会議による、まちづくり計画策定のためのアンケート調査では、「犠牲者ゼロプロジェクト」の存在を7割が知らないとの結果であった。これは、「犠牲者ゼロプロジェクト」の周知広報をしてないため、当然の結果である。【添付資料③】 ●同アンケートでは、①当学区での災害危険度の認識が低い、②災害への備えが不十分、③浸水の恐れのある指定避難所への避難の不安などが読み取れる。 ●今後の周知広報の取り組み ①令和3年5月学区内に全戸配布する富山学区まちづくり計画(2021年度～2023年度)にて、学区の防災の取り組みとして、個人・家庭、単位町内会、連合町内会それぞれの活動目標・行動目標を周知【添付資料④】 ②令和3年6月学区内に全戸配布する豪雨災害編防災パンフレット(A2両面)にて、学区の災害危険度、タイムライン、避難場所、災害への備えなどを周知
⑤ 次年度計画	※次年度に引き継ぐ課題、今年度の実績を踏まえた次年度計画の概要をご記入ください。また次年度に引き継がず活動を完結する場合はその理由(課題が解決したからなど)をご記入ください。 (1) 土砂災害講習会(令和3年6月) 学区内の土砂災害危険度、その備えを周知(岡山理科大学に講師依頼) (2) 学区の防災の取り組み周知(令和3年5月)【添付資料④】 全戸配布する富山学区まちづくり計画(2021年度～2023年度)にて、学区の防災の取り組みとして、個人・家庭、単位町内会、連合町内会それぞれの活動目標・行動目標を周知 (3) 「避難所開設キット」を活用した避難所運営体制づくり 避難所運営マニュアルを細分・簡素化し、その場ですばやく誰でも役割分担できる避難所運営体制を目指す (4) 単位町内会での声かけ・誘導体制づくりの促進 単位町内会との防災推進会議を通じて、単位町内会での声かけ・誘導体制、要配慮者支援体制づくりを促進する (5) 災害対策本部・避難所運営に必要な資機材・備品の整備 (6) 学区防災訓練(令和4年2月) 避難所開設・避難者受入れ訓練

⑥事業実施者の評価・感想

※事業を実施することを通じて持続可能な地域づくりを進めることができたか、持続可能な地域づくりを担う人づくりにつながったか、地域の課題解決力は高まっているか等、本事業についての自己評価をご記入ください。

●上半期は活動中断、下半期は防災活動推進体制・活動計画の見直しに注力したことにより、避難誘導・避難者受入れ体制づくりについて、検討手法の模索にとどまっており、「(逃げ遅れによる) 災害犠牲者を出さない」という地域づくりにはほど遠い現状である。

●しかしながら、今後の活動の筋道は見えて来ており、その確実な推進のために、事業を推進する人材の拡充が当面の課題である。学区の防災活動を推進する新たな人材(若手・女性を含む)を発掘し、防災活動推進体制を強化する。

○事業決定時での審査会意見(区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容)

【組織の状況】

・区づくり推進事業として実施する活動の実施主体を明確にしてください。連合町内会として実施するのであれば、通常の連合町内会活動と区づくり推進事業との区分けを明確にしてください。

【区民等への周知】

・事業を進めていくにあたっては、地域住民等へ事業の意義が広く理解され、事業を支える地域住民が増えていくことが必要です。このため、事業を進めていくうえでの合意形成の図り方や取組み方、周知方法などについて、専門家の意見も含める等、地域で話し合っていてください。

○上記の助言及び意見を受けての事業への取り組み等
(右記のⅠ～Ⅴの該当部分へ○を付け、その取り組み内容、右記の結果となった理由等について記入してください。)

●学区防災活動の推進主体であった有志による”犠牲者ゼロプロジェクト”と形式的な結成にとどまっていた”富山学区自主防災会”とを一本化し、防災活動の継続性を確保するとともに、令和3年度の区づくり推進事業は、“富山学区自主防災会”を申請団体とした

●自主防災会と単位町内会との間で、単位町内会ごとの防災推進会議を実施し、防災活動についての単位町内会との同意形成・すり合わせを図った

●上半期は活動中断、下半期は防災活動推進体制・活動計画の見直しに注力したことにより、住民への活動の周知はしていない

助言等の内容について、事業へ反映できましたか。

- Ⅰ できた
- Ⅱ おおむねできた
- ③ 一部できなかった
- Ⅳ まったくできなかった
- Ⅴ 改善意見がなかった

審査会での助言及び意見を踏まえた改善

⑧事業実施経過

※時系列に沿ってご記入ください。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日などもご記入ください。補助事業実施決定前の準備活動についてもございましたらご記入ください。

年 月 日	内 容
令和2年7月	犠牲者ゼロプロジェクト運営会議(7/11、7/22、7/30)
令和2年8月	犠牲者ゼロプロジェクト運営会議(8/10、8/26)
令和2年9月	自主防災会運営会議(9/2、9/7)
令和2年10月	自主防災会運営会議(10/16、10/21)、役員会(10/30) 自主防災会
令和2年11月	自主防災会運営会議(11/3、11/13)、役員会(11/22) 富山学区町内会長会議(11/14)
令和2年12月	自主防災会運営会議(12/11、12/17、12/25)、役員会(12/12)
令和3年1月	自主防災会運営会議(1/8、1/21)、役員会(1/13)
令和3年2月	自主防災会運営会議(2/5)、役員会(2/10) 富山学区防災訓練(2/21)
令和3年3月	自主防災会運営会議(3/17、3/22)、役員会(3/27)
【防災推進会議】	21 単位町内会中、12 単位町内会実施 山崎本町町内会(9/28) 円山境内町内会(12/19) 円山中央町内会(12/27) 海吉本村町内会(1/10) 海吉出村町内会(1/18) 円山宮西町内会(1/24) 円山浜倉町内会(1/30) 円山団地町内会(2/13) 海吉中村町内会(1/27) 海吉福吉町内会(1/31) 円山嶽町内会(2/14) 操陽南山町内会(3/24)

⑩ 収 支 決 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容
岡山市補助金	67,800	51,800	(100円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	67,900	51,943	
参加者負担金			
協賛金			
寄付、他収入			
計	135,700	103,743	

◆ 支 出

単位:円

費 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	30,000	73,452	うち、インク代28,150円、感染症対策37,838円
②食糧費	32,000		会議時の飲料購入せず
③印刷製本費	73,700	26,399	インク代28,150円①消耗品費に計上
④燃料費			
⑤光熱水費		2,400	会議会場エアコン代
⑥通信運搬費		1,492	資料郵送・配達費用
⑦広告料			
⑧手数料	費目別の内容は、別紙「費目別経費明細」参照		
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料			
⑫工事請負費			
⑬報償費			
⑭保険料			
⑮旅費			
⑯その他			
計	135,700	103,743	

※様式に入力される場合は、収入・支出欄は、エクセルのワークシートになっています。欄の上でダブルクリックして、ワークシートを表示させてから入力してください。